

■ 書 評 ■

エスクロール
基本神経病理学F. Gray, U. De Girolami, J. Poirier ● 編著
村山繁雄 ● 監訳

東京大学大学院医学系研究科神経病理学 岩坪 威

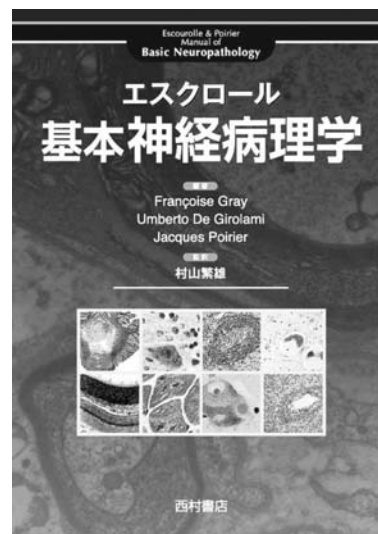
本書の届いた日、書架から Escourolle et Poirier 著、1977 年版 “Manuel élémentaire de neuropathologie” (Masson 社) を取り出してみた。緑色のシンプルな装丁、200 頁ほどの簡素な書物である。Rubinstein 教授による英訳版が普及し、簡潔にして明晰かつ健全な記載と、豊富に収載された図版の秀逸から、評者らが神経内科学、神経病理学の手ほどきを受けた 1980 年代以来、神経病理学入門書のバイブルと目された書物であった。今回村山繁雄先生監訳により最新版が邦訳された本書の、初期版に相当する。

しかし過去四半世紀の間に、神経病理学は、免疫組織化学の普及による組織病変の物質的理解の進歩、分子遺伝学や臨床神経学の長足の進歩に基づく疾患・病態概念の変遷などを経て、大きく変貌した。基本となる概念は不変であるものの、教科書のページ数を数倍増させるに足る莫大な知見が集積され、その全貌を初学者が捉えることは年々困難となりつつあった。特に本邦で優れた教科書が長年出版されていないことは、われわれ神経病理学に携わる者の悩みであった。

今回、村山繁雄先生と、門下の精

鋭により完訳された『エスクロール基本神経病理学』は、現代神経病理学のエッセンスを余すところなく盛り込んだ名著である。まず本書を紐解いて目に入るのは、豊富なカラー図版を駆使した、美しく明快な肉眼・顕微鏡写真である。代表的疾患の、真に教科書的な組織像がちりばめられている。一部には、初期バージョンに収載されていた髄鞘染色標本の懐かしい白黒写真や、フランス独特の味わい深くわかりやすい模式図が残されていることも嬉しい。さらに訳文は正確かつ自然であり、随所に補充された訳注も理解を助け、完成度を高めている。村山繁雄先生は、臨床神経学と神経病理学に、余人の追随し得ない該博な知識と、深遠な経験を有され、多くの世界的知見を発信しつつ、若い神経内科医・神経病理医を懇切に育成してこられた、本邦臨床神経病理学の泰斗である。本書の訳書としての完成度の高さは、村山先生が数年間にわたり、多忙な活動の合間のすべてを傾注された果実であろう。一行一行の記載を熟読するにつけて、読者は村山先生から直接個人教授を受けているような心持ちとなるに相違ない。

過去四半世紀の神経病理学の進歩



の背後では、フランスの伝統的医学出版社 Masson 社も国際企業 Elsevier 社に併合され、名著 Escourolle-Poirier も仏語版での改訂が許されなかったと伺うと、寂寥の念を禁じ得ない。しかし、序文で村山先生が触れておられるように、私たちが本書により母国語で神経病理学を勉強できるこの天恵を喜びたい。そして、この翻訳をベースとし、村山先生と一門の先生方が集積された幾万の症例と、幅広く深い学問を基盤に、世界に通用する、日本語による、そして村山先生ご自身による書き下ろしの神経病理学教科書が出版されることを確信している。それまでの日々は、本書が本邦の神経病理学を導く灯となることであろう。素晴らしい書物を私どもに与えて下さった、畏兄村山先生に心からの感謝を申し上げつつ搁筆いたします。

B 5, 頁 396, 2009 年

定価 8,925 円 (本体 8,500 円 + 税 5%)

[ISBN978-4-89013-376-5]

西村書店刊